

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 18日

1. 職名・氏名 准教授 東知宏

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護、授与機関 兵庫県立大学、
授与年 平成22年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護理論（2）：1年次
②内容・ねらい 1. 主要な看護理論にふれ、それらを基に看護の中心的概念について考究する 2. 複雑かつ困難な看護現象に対して、看護理論を活用することによってその現象を明確にし質の高い看護実践ができる能力を養う
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・看護理論について、グループワークに基づく発表形式をとることにより、理論それぞれの特徴について主体的に学習できるよう工夫を行った。 ・各理論のポイントについてまとめを行い、各学生の学びをより強固なものにできるよう図った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護技術（2）：1年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、対象の生活過程を健康的に整えるための基本的な表現技術、観察の技術および安楽に整える技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、單元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。 ・基本的な看護技術の修得度を、実技試験を行うことで確認した。実技試験後は評価を伝え、改善すべき点の確認を行った。 ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。 ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。 ・單元終了後に知識の修得度を小テストで確認した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 臨床看護技術（2）：1年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指す。対象の生活の質や日常生活活動を向上させるために欠かせない日常生活の援助に関する看護技術（排泄援助）および感染予防の技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、症状・生体機能管理技術、与薬の技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、單元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。 ・基本的な看護技術の修得度を、実技試験を行うことで確認した。実技試験後は評価を伝え、改善すべき点の確認を行った。

- ・小グループに対して教員がデモンストレーションを行い、技術のイメージ化を促した。
- ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。
- ・緊張感のある事例展開を目的とし、演習にロールプレイを導入した。
- ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。
- ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストおよび実技テストで確認した。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

基礎看護技術Ⅲ (1) : 2年次

②内容・ねらい (自由記述)

看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、診療に伴う技術を学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

- ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習 (視聴覚教材の視聴を含む) を課した。
- ・基本的な看護技術の修得度を、実技試験を行うことで確認した。実技試験後は評価を伝え、改善すべき点の確認を行った。
- ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。
- ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。
- ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストで確認した。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

フィジカルアセスメント (1) : 2年次

②内容・ねらい (自由記述)

人間の全身の状態を的確に把握するために、系統的に行う身体診査であるフィジカルアセスメントの意義や具体的方法(フィジカルイグザミネーション)を学習する。さらに、看護過程を展開する技術を学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

- ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに演習内容に関する予習 (視聴覚教材の視聴を含む) を課した。
- ・演習では呼吸モデルなどのシミュレーション器材を用い、人体の正常と異常との違いを判断できるよう工夫した。
- ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。
- ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。
- ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストで確認した。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

基礎看護学実習Ⅰ (1) : 1年次

②内容・ねらい (自由記述)

看護が機能する場である病院の概要を知るとともに、対象の療養生活の場としての入院環境に対する理解を深める。看護の対象・看護の実際を理解し、看護学生として必要な態度を身につける。生活過程の援助を中心とした対象とのかかわりを通して、対象への感性および表現技術を高める。既習の看護理論と看護の実際を照らし合わせ、看護の果たすべき役割・機能について考える。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

- ・体調管理、身だしなみ、態度などの基本事項を指導し、自身の看護師としての姿勢について考えることができるよう促した。
- ・学生が学びやすいよう、実習環境 (医療スタッフとの連絡調整、必要物品の整備等) を整えた。
- ・学生個々の進捗状況に合わせた個別指導を行った。
- ・グループカンファレンスを通して学生個々の学びをグループメンバーで共有した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
基礎看護学実習Ⅱ（2）：2年次

②内容・ねらい（自由記述）

対象の個別に即した看護を認識し、計画的に看護を実践、評価するという看護過程を展開するための基本的能力を修得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

- ・実習施設を1施設から3施設に変更し、コロナ感染者の発生に対応できるようにした。また各実習施設の受け入れ学生数を減らすことにより、学習効果の向上と受け入れ施設の負担軽減を計った。
- ・体調管理、身だしなみ、態度などの基本事項を指導し、自身の看護師としての姿勢について考えることができるよう促した。
- ・学生がまなびやすいよう、実習環境（医療スタッフとの連絡調整、必要物品の整備等）を整えた。
- ・学生が患者の個性を踏まえた看護実践を展開することができるよう、個々の進捗状況に合わせた個別指導を行った。また、患者との関わりが不得意な学生に対しては、教員と一緒に患者と関わるなどのサポートを行った。
- ・グループカンファレンスを通して学生個々の学びをグループメンバーで共有した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
看護研究方法論（1）：3年次

②内容・ねらい（自由記述）

看護実践における研究の必要性、演繹的アプローチ・帰納的アプローチによる研究の特長と具体的方法について修得する。主に実験研究・調査研究、質的研究について概説し、実際の研究論文を用いて研究手法の基礎知識を深める。また、人を対象とする看護研究の研究倫理を理解し、具体的に研究の倫理的配慮の方法を修得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

- ・研究を行うための入念な文献検索および文献検討について、学生自身で関心のある文献を探し、クリティークすることにより、学生の興味を引くことができた。
- ・実験研究に関する講義においては、実際の論文をクリティークしながら説明することにより、実験研究の手法や結果の読み解き方を教授することができた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業研究（3）：4年次

②内容・ねらい（自由記述）

講義や実習経験を踏まえ、医療・健康に関する現象について研究課題を明確にしたうえで、文献検討、観察・調査・実験などの研究方法を用いて論文を作成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

- ・ゼミ形式での文献クリティークを行い、研究課題の明確化を促した。
- ・研究計画書の作成では、研究として成立できるか、実現可能かを確認しながら指導を行った。
- ・適切な実験手技を習得できるよう、プレテストを繰り返し実施した。
- ・論文の作成では整合性が取れているか、一貫性があるか確認を行い、指導した。
- ・研究結果のプレゼンテーションでは、要点を的確に表現できているか内容の確認を行った。

(2)その他の教育活動

内容

- ・臨床看護研究指導（病院で行われる看護研究の発表までの指導を実施、福井赤十字病院）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等	【1件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
基盤研究（C） 認定こども園向け手指衛生教育プログラムの開発 （研究代表者・2019～2022年）	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・ 日本看護研究学会近畿・北陸地方会委員 ・ 第38回福井県看護学会長（令和4年9月10日、福井） ・ 第33回看護研究セミナー企画、運営（令和4年10月29日、オンライン開催） ・ 福井県看護協会での臨床看護研究指導（令和3年3月8日、福井）	

5. 地域・社会貢献活動

<ul style="list-style-type: none">・岡保地区未来づくり協議会委員（岡保地区における地域活性化に関わる検討および啓発活動の実施、看護の専門家として参加、令和元年4月～現在に至る）・認定こども園における手指衛生教育の実施（研究への協力が得られた認定こども園において、研究結果を用いた手指衛生教育を実施、令和2年2月～現在に至る）・公開講座（コロナ禍からの教訓..家庭内感染を予防するためには？、7月9日）・探究学習指導（武生東高校、7月15日、9月3日、12月16日）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
<ul style="list-style-type: none">・DX推進委員（令和3年4月～現在に至る）・情報設備更新ワーキング（令和4年12月～現在に至る）・実習検討委員会（平成29年4月～現在に至る）
(3)学内行事への参加
<ul style="list-style-type: none">・コロナワクチンの学内接種において接種者担当（令和3年2月17日、12月19日、12月20日）
(4)その他、自発的活動など
<ul style="list-style-type: none">・状況特定理論研究会（兵庫県立大学、令和3年4月～現在に至る）